

# ヤガン折目 …令和6年7/29・30・31

毎年旧暦6月の3日間を通して行われる神事です。今年は新村長と村長・副村長が一挙に参加される稀な機会に恵まれており、本島からの記者もお見えになりました。ノロは数日前からおもろ（歌）の稽古を行い、初日の朝、ウタキから三日間で使用する道具の材料を取り、きれいに洗って準備します。夜はタレーラム（西コミュニティ横の小高い場所）に山の神を迎えます（山ん神）。二日目朝、カーブイ（植物の冠）とシブク（銅鑼と太鼓の棒）を作ります。夕方イビガナシー（ヤガン折目を行う広場）に行き、神酒とバーイ（干魚）を添えて、祈りでその場所を開けて山の神を迎えます（火ヌ神祭）。三日目朝、ぬん殿内から銅鑼と太鼓の音で道を清めながらイビガナシーまで歩きます。到着後、村関係者が着席したところでウンヌキグトゥを唱え、来所した方の祈願を受け付けます（アサフララ）。正午頃に村内の拝所を回り、祈りを捧げます（トゥン巡り）。その後、イビガナシーに戻り午後祈願を受け付けます（ユウフララ）。



17時頃東西のノロが歌を掛け合い、広場を対角線上に移動しながら神と戯れます（立ウムイ<sup>たち</sup>）。その後改めてウンヌキグトゥを唱え、広場に招いた神を戻す祈りの後、カーブイを広場入り口の拝所に置いて三日間が終了します。さらにその翌日、それまで使った衣装を洗い（衣装さらし）、翌々日にこの神事に携わったあらゆる神や人、関わった拝所に感謝の気持ちを込めて各所で祈ります（神むどうし）。これでこの年のヤガン折目がすべて終わります。



今年も余興が催され、奉納相撲・村内から栗国三線愛好会の皆様と本島から島唄 やーにんじゅの皆様の演奏が行われました。

ヤガン折目行事への寄付および寄贈をいただきました。

- 株式会社丸内（寄付）
- 第一航空株式会社（寄付）
- 株式会社沖縄三共事務機（寄贈）